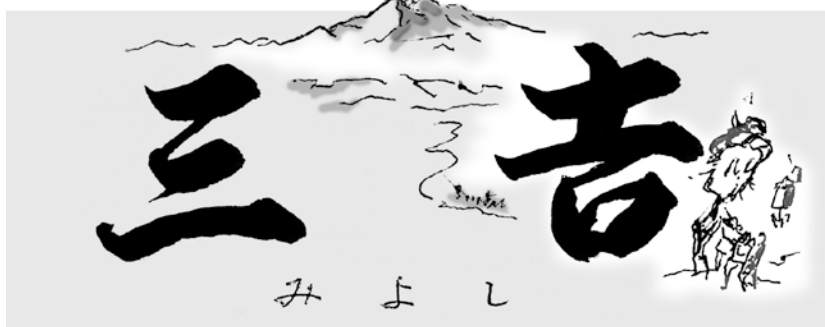




発行所

太平山頂上鎮座

太平山三吉神社総本宮

宮司 田 村 泰 教

秋田市広面字赤沼3の2

電 話 (018) 834-3443

F A X (018) 834-3444

<http://www.miyoshi.or.jp>

春季
例大祭
のご案内

行事日程表

五月七日(火) 午後六時

春季例大祭

宵宮祭

五月八日(水) 午前十一時

当日祭

平成から令和へ。新しい元号が明らかとなり、間もなく新しい御代を迎える。「令和」：暫くは違和感を覚えるだろうが、時間の積み重ねの中でそれも解消していくことだろう。▽賛否はあるが、今回の御代替わりには新元号の発表から踐祚まで一ヶ月の猶予がある。平成を振り返る報道も多くなると思うが、ここは自分自身の来し方をゆつくりと振り返りつつ、新しい時代の生き方や抱負を考えるのも良いだろう。十連休はうつてつけの機会だ。▽災害が多く、天皇皇后両陛下が被災地をご慰問なされるお姿が印象深かった平成の御代。次の時代は天災や大きな事故、事件・禍事^{まがこと}が少ない穏やかな時代となるように。今上陛下の祈りの大御心をしっかりと受け継いでいくことが私たち神職の大きな使命となる。▽言い知れぬ高揚感と大きな期待。奇しくも来年からはラグビーW杯、東京五輪・パラリンピック、大阪万博・・・と世界的な催しが続く。この度の御代替わりが、この国にとって良い契機となるように、それぞれの立場で力を尽くしていきたい。

宮司 田 村 泰 教

地元シリーズ ⑤9

熊野三山詣で旅行に参加して

関 山 尚 三



楽しく、有意義な旅行でした。

初日、高野山へ向いました。世に遺産の高野山は標高八百メートル以上の高い山にあり、1200年にも前に、弘法大師様によって開かれた神秘的な奥の院や、織田信長を始め、著名な大大名の墓碑や供養塔が立ち並ぶ広大な墓地を、専門のご案内の方が詳しく説明し、ご案内して下さいました。高野山には大学や、多くの寺院もあり、沢山の人が住んでいる町でした。初日の夜は、高野山の宿坊の「遍照尊院」様に宿泊しました。立派な大浴場もあり、お料理は精進料理でしたが、美味しい食事を

例年参宮ご馳走になりました。但し、酒類旅行に参加はありません。般若湯も、修行のさせて頂いて障りとなることでした。翌朝6時ですが、時半に、ご本堂で朝経がありました。今回も大変、たので、本堂に参りました。有難い読経を聞き、身も心も清々しくなりました。読経の後、ご住職様から、有難いご説法がありました。その内容をご紹介します。

「世の中はこそ、のニノ字の置きどころ」「治まるも・こそ」

例えば嫁さんが「お姑さんが居られるから、こそ 外出も、子供

の授業参観にも行けます」お姑さんは、「嫁さんが息子と仲良くして、私を大事にしてくれなことです。と、有難い説法をして下さいました。

翌十三日(水)は高野山スカイラインを降り熊野大社へ向いました。雪が降って寒い日になりました。熊野神社から、那智大社を経て150メートルの日本一高きがある那智の滝を見てから、船で浦島島へ渡り、ホテル勝浦温泉に泊まりました。大きなホテルで迷子になる心配がありました。その晩は唄や・踊りなどリラックスして、夕食を楽しみ、盛りました。

十四日(木)熊野三山に、お詣りしました。速玉神社に参拝したとき、樹齡千年の榎のご神木がありました。榎の木は暖地に自生する木で、熊野地方では、ご神木として古くから葉を守り袋に入れて、災難除けにしたそうです。岩手県に民謡の、名曲「南部牛追い唄」の歌詞に、「今度来るときや・持つてきてたもれや、奥の深山の榎の葉を」と唄われています。さらに旅は・本州最南端の汐の岬へ向い、橋杭岩や三段壁・円月島などの珍しい景色を見て、白浜温泉に宿泊しました。白浜はその名のとおりに、あくまでも純白な綺麗な砂浜が続いていました。

十五日(金)白浜温泉を出発し、



熊野那智大社

言挙げ 68

じゅんさいの花が真っ赤に燃える

権 梶 宜 平 賀 万 唯



今回は私ります。また、近年では肌に良いの地元、三成分を化粧品として加工する会社種町の特産も増えてきて、美容食品としての品である注目度も上がってきています。

「じゅんさい 主に酢の物や鍋に入れるのが一般的な食べ方です。さっとお湯で湯がけば、鮮やかな緑色に変化します。私のような地元民からすると旬の季節になれば学校給食や食卓に出るような、むしろ買わなくても家にあるような、馴染みの食材です。

記載され、古くから食べられていた植物です。最近ではその瑞々しい見た目から「食べるエメラルド」と称されることもあります。食べることが出来るのは若い芽や葉で、ぬめりのある寒天質に覆われています。葉にはポリフェノールが多く含まれている上、カロリーも低いので健康に良い食品でもあ

特別気にしたことはなかったのですが、実はこの「じゅんさい」、東京や京都の料亭などでは高級食材として珍重されているそうなのです。かつては日本全国で見ることが出来たじゅんさいですが、今では水質の変化などにより四都県で絶滅、二十一日県で絶滅・準絶滅危惧種に指定されている為です。

その貴重な国産じゅんさいの九割を担っているのが、私の地元、秋田県三種町という訳です。

日本一のじゅんさいの里、と銘打つからには、という訳ではありませんが「じゅんさい王国節」という音頭が地域にございます。お年寄りから子供まで踊れるような簡単な音頭です。歌詞の一部がこちらです。

じゅんさいばなが 真っ赤に燃える 町は繁盛の 灯がともる
咲いて千石 金の波 ドドドン
ドドドン 祭りの太鼓
日本一だよ輪になって さあ
踊ろう

森岳じゅんさい 日本一 じゅんさい王国 夢の国

歌詞にあるように、じゅんさいは小さな真っ赤な花を咲かせます。花が咲く頃がじゅんさい収穫の一番の時期にあたります。加工品は一年中ありますが、生のじゅんさいを食べられるのは夏の時期だけ。また、収穫時期の三種町では毎年摘み取り体験や流しじゅんさい、世界じゅんさい摘み取り選手権大会などのイベントを毎年行っています。

中々手にすることがない食材だとは思いますが、もしお目にかかることがあれば、こんな話があつたなと思いついて一度ご賞味いただければ幸いです。



じゅんさいの酢の物



じゅんさいの花

熊野三山参拝旅行のご報告

三月十二日から十五日

権柄宜 和田 恵梨子

秋田空港から直行便で伊丹空港へ。大阪からはバスに乗って高野山へ。専属ガイドの説明を受けて奥の院、金剛峰寺、檀上伽藍を見学しました。初日は金剛峰寺からほど近い宿坊へ宿泊。夜は精進料理をいただき静かに就寝。

二日目は朝から雪景色。急遽迂回をして下山。次第に気温も上がり晴天に恵まれました。車窓から大斎原が見えて直ぐに熊野本宮大社へ到着。正式参拝後にご由緒等をご説明戴きました。午後からは熊野那智大社を正式参拝。境内を丁寧にご案内戴きました。バスの中から那智の滝に別れを告げ今日の宿泊所へ。懇親会では熊野那智大社宮司男成洋三様、前明治神宮至誠館館長荒谷卓様にご列席を賜りました。参加者の皆様による民謡や踊りを披露し非常に盛況でした。

三日目は御神木木ノ木で有名な熊野速玉大社を参拝して橋杭岩へ。本州最南端の潮岬で昼食を取った後は三段壁へ。今夜の宿泊は白浜温泉。最終日の懇親会も大盛況でした。

最終日は梅干工場を見学して道成寺へ。伊丹空港で県外からの参加者と別れて秋田空港へ。全員無事に家路に着きました。



懇親会



熊野本宮大社

奉納

一、龍神彫刻

羽深 進 殿



人事 (四月二日)

出仕を命ずる

内海磨弥

神武館だより

三吉道場

門下生募集 初心者大歓迎です

平成七年開館の神武館三吉道場も多くの若者が巣立って、今は社会で活躍しております。剣道を通じて体力・集中力・礼儀作法を身に着け、仲間たちと汗を流しながら、元気で明るい青少年の育成を目指しています。

・対象者…幼稚園児年長・小学生

・稽古日…毎週 月水金曜日
十七時三十分～十九時四十五分

毎週 土曜日

十六時三十分～十九時

・指導者…和田満春先生

菅野正直先生



● みよしスケッチ ●

初詣

雪の少ない穏やかな天候の中で元旦から三ヶ日の間に約十万名の方々にご参拝頂きました。



北都銀行バドミントン部

世界で活躍する選手達が参拝されました(十二月四日)



厄年・年祝い



どんと祭 (二月十七日)

古いお札・お守りや正月飾りなどをお焚き上げいたしました。



巫女説明会

(十二月十三日)



梵天祭反省会

(二月一日)



平成31年1月17日(木)

三吉梵天祭

今年の当社特殊神事三吉梵天祭は、平日の開催ながらも、六十団体様より六十八本のご奉納を頂き、無事に終了いたしました。



御即位 **奉祝**

春季 例大祭のご案内

天皇陛下御即位を奉祝する春季例大祭を左記の通り斎行いたします。

是非、ご家族、ご友人同士お誘い合わせの上、多くの方々にご参列下さいますようご案内申し上げます。

記

宵宮祭 五月七日(火) 午後六時

例大祭 五月八日(水) 午前十一時

(各日とも、祭典後直会がございます。)

◎ご参列の方は、四月二十五日までに係(和田)までご連絡下さい。

(七日) 秋田舞

(八日) 浦安の舞



三吉梵天祭

祭りの佳境「けんか梵天!」15町内による激しい先陣争いが繰り広げられました

